

製品名: KOR-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13090**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	OPRK1
別名	OPRK1; OPRK; Kappa-type opioid receptor; K-OR-1; KOR-1
遺伝子 ID	4986.0
SwissProt ID	P41145
免疫原	抗血清はヒト OPRK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

背景

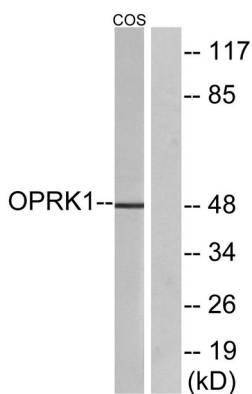
この遺伝子は、7回膜貫通型 G タンパク質共役受容体ファミリーの一員であるオピオイド受容体をコードしています。この受容体は、内因性リガンドの受容体としてだけでなく、様々な合成オピオイドの受容体としても機能します。リガンド結合により、アデニ

ル酸シクラーゼ活性が阻害され、神経伝達物質が放出されます。このオピオイド受容体は、疼痛知覚に関与し、合成オピオイドの運動抑制、鎮痛作用、嫌悪作用を媒介します。この遺伝子の変異は、アルコール依存症やオピオイド中毒とも関連付けられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。最近の研究では、この遺伝子における翻訳リードスルーと、代替的なインフレーム翻訳終止コドンを用いた C 末端延長型アイソフォームの発現が示唆されています。 [RefSeq 提供、2016 年 1 月],機能: カルシウムイオン電流を減少させ、カリウムイオンコンダクタンスを増加させることで神経伝達物質の放出を阻害する。ダイノルフィンの受容体。覚醒および自律神経系および神経内分泌機能の調節に関与する可能性がある。 ,オンライン情報: κ オピオイド受容体エントリ,類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。 ,サブユニット: SLC9A3R1 と相互作用する。 GABARAPL1 と相互作用する。 ,

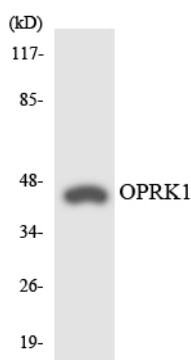
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



OPRK1 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



OPRK1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。